

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 3 号を公表したので送付します。

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 3 号

- 1 作物名 ナス科植物
- 2 害虫名 ナスミバエ *Bactrocera latifrons*
- 3 発生地域 宮古島、伊良部島、多良間島、沖縄群島（北大東村除く）
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 平成 29 年度 6 月から 8 月のミバエ類果実調査及びナスミバエ果実調査の結果、新たに宮古地域において発生が確認された。
 - (2) 平成 22 年 12 月に沖縄本島中部で発生が確認され、平成 26 年度以降、沖縄本島周辺離島でも発生が確認されるなど、毎年分布が拡大している（図 4、5）。
 - (3) 県内未発生地域である八重山地域、北大東村及び県外への分布拡大を防止するため、注意喚起を強く促す。
- 5 発生生態および被害
 - (1) 形態：成虫（図 1）は体長約 6 mm。ミカンコミバエに似ているが次の点で異なる。
 - ① 翅の前縁脈の頂端に黒紋がある。
 - ② 腹部背面は全体が褐色で、T 字状の黒紋はない。
 - ③ 黒色の顔斑は長楕円で大きい。
 - (2) 生態：①年間を通して植物への寄生が認められる。年間世代数はおよそ 7 世代。
 - ②果実に産卵し、幼虫が果実内部を食害する（図 2）。
老熟幼虫は乳白色～黄白色で、体長は 7～9 mm（図 2）。
老熟すると果実から脱出して、地中で蛹化する。
 - (3) 分布：東南アジア、台湾、ハワイなどに生息する。
 - (4) 被害：幼虫に寄生された果実は食害により腐敗する。特に、露地で防除が十分でない無農薬栽培、家庭菜園等のシマトウガラシ、ピーマン、トマト、ナス等のほ場で被害が多い。
- 6 防除対策
 - (1) まん延防止対策のため、シマトウガラシ等辛味とうがらし類（実付き苗、観賞用含む）の生果の未発生地域への移動は自粛する。
 - (2) 登録農薬による定期的防除の実施。
 - (3) ほ場周辺の野生寄主植物（テリミノイヌホオズキ等のナス科植物）は除去する。
 - (4) ほ場内での被害果実や果実残さはビニール袋に入れ、密閉処分等を行う（図 6）。
 - (5) 施設栽培では側面、天窓、出入口に 2 mm 以下の防虫網を設置し、侵入防止に努める。



図1 ナスミバエ成虫(体長約6mm)



図2 シマトウガラシ被害果実(左)と老熟幼虫(右)



図3 テリミノイヌホオズキ

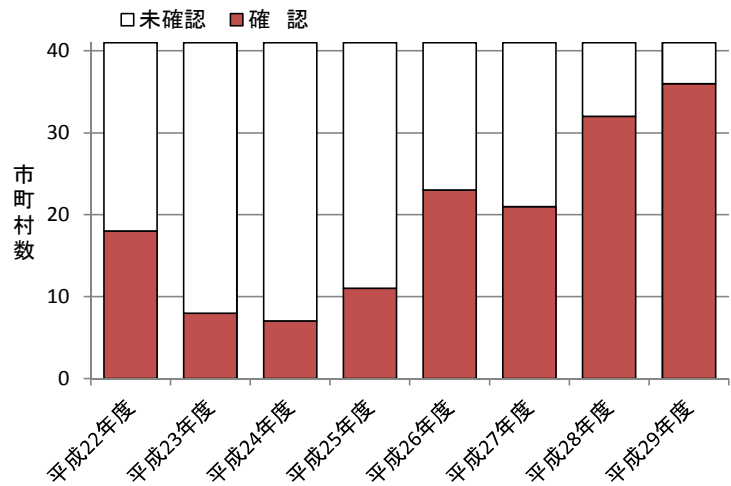


図4 ナスミバエが確認された市町村数(年度別)

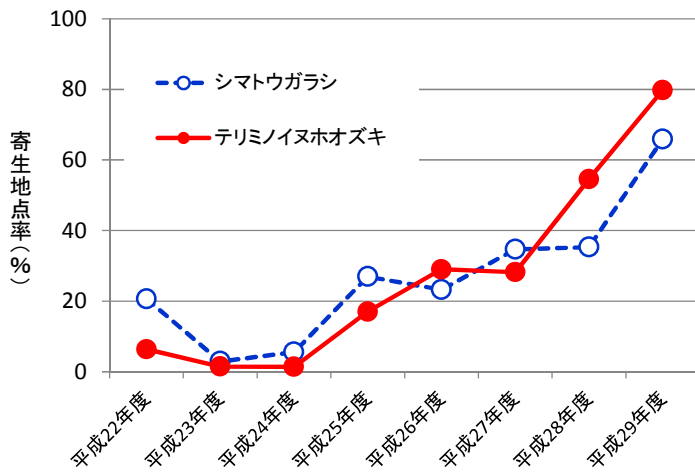


図5 沖縄群島の果実調査でナスミバエの寄生果実が確認された地点の割合(平成29年度の数值は7月現在)



図6 果実残さ処理の例

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
 ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>